

事業所名	鶴鶴グループホーム (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成18年12月5日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 生活指導員 資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、福祉アドバイザー-2級、介護支援専門員 B:現職 デイサービスセンター管理者 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法士 B:現職 高等学校非常勤講師 資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述) 岡山市南部の市街地に在り、直ぐ近くには幹線道路が走り、バス停まで徒歩2分とアクセスもよい。商店なども歩いて行ける場所にあり、都市生活がしやすいロケーションである。 ホームの運営母体である医療機関とは一体的な関係にあり、医療面でのバックアップは万全である。すぐ近くには、岡山赤十字病院があり、歯科医院とも密接な連携がとれている。24時間、何時でも医療対応が可能で、入居者・家族は安心してホーム生活が送れる。 施設長のグループホーム運営に関わる熱意は、「生きている限り人間らしく」を基本方針として、職員全体にしっかり浸透・共有されている。職員は、入居者に寄り添い、丁寧に笑顔で接し、個人個人を尊重する介護を行っており、それらが入居者の笑顔とくつろぎの表情に表れている。 大型のマンション風の都市型グループホームで、3ユニットがワンフロアごとの一つの家としてあり、それぞれが特長を持ち、ユニット同士の親密な付き合いの中に、助け合いの関係ができています。近所の皆さんは、「鶴鶴」を運営している医療・介護福祉施設が長年推し進めている、プライマリケア(地域住民の健康をトータルで守る身近な医師)の趣旨をよく理解されており、近隣との関係は良好である。 施設長のスタッフに対する適切で細かい思いやりと、意見をよく聞く姿勢は、スタッフのやる気と精神的安定を醸し出し、引いてはホームへ活力を与え、入居者に和みと安らぎをもたらしている。 入居者のついの住処として、「終末医療」に取り組む体制が出来ており、入居者・家族は安心して余生を任すことが出来る。 開設以来のホーム誌「あいあい新聞」は、各ユニット毎に毎月連続して発行されており、ホームと家族の間の深い信頼感が構築されている。家族会との結びつきにより、より内容のある豊かな、「和気あいあい」の生活実現に協働した努力が見られる。
特に改善の余地があるとと思われる点(記述)
特段に改善すべき点はない 職員の皆が、自由に気が付いたことを書き記す、「独り言ノート」というものを作り、現場での色々な事象や入居者一人ひとりの特長・個性を記入している。それらに関して、スタッフで検討・研究をし、地道に認知症ケアの質向上に向け努力されていることは、評価員にも感銘を与えた。グループホームの名称である「鶴鶴」の精神が、入居者・職員だけでなく、近隣・地域全体にさらに浸透し、地域福祉の核となって行くものと思われる。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>入居者一人ひとりの生活歴・能力・ホームでの生活状況・変化など、スタッフ全員が検討してよく理解し、入居者の残存能力を尊重して、自立した生活に向けていくように努力している。</p> <p>職員は「生きている限り人間らしく」を基本テーマとし、入居者主体のホーム生活を目標としている。手を出す介護より、見守り中心の介護を行うように心掛けている。</p> <p>希望があれば、最後まで同じ家族としてお世話するようにターミナルケアのシステムを取り入れ、本人・家族も心おきなく安心して暮らせる事を目標としている。</p>		

II 生活空間

番号	項目	できている	要改善
2	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
3	建物の外回りや空間の活用		
4	場所間違い等の防止策		
5	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
記述項目	介護スタッフの寄り添う姿勢を大切に、精神的ケアを中心に、入居者の心の安定を重視する介護を目指している。		
	<p>常に研鑽を重ね、介護資質の向上を図る努力をしている。職員は「私たちの職責はいいところがいっぱいある。」と誇りと自負心を持っており、その自信が入居者に安心と落ち着きをもたらしている。</p> <p>入居者個人の能力を認め、出来る事を役割として振り当てている。個人の自主性を尊重し、自由な行動を行えるようにして、心理的圧迫を与えないように配慮している。</p> <p>起床時間から就寝時間まで余裕あるタイムスケジュールで、入居者個々のペースに合わせた生活が出来るように取り組んでいる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居者個人の能力を積極的に受け止め、重く支援するのではなく、自発的行動を待ち、自主性を振り起こすようにしている。</p> <p>各種アクティビティ・趣味活動等を用意し、入居者個々の関心ごとを誘い出している。その人にとって意義を持って活動出来るように配慮し、自由に楽しむ中にその結果を評価し、尊重するように取り組んでいる。</p> <p>入居者の個人情報事情は事務室に於いて保管しており、個人情報は確実に保護するようにしている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>施設長は管理者・職員との意思疎通を図るため、常時各職員と話し合う努力を行っている。「独り言ノート」でも、職員の内面の悩みや介護の気づきを汲み上げ、職員のストレス解消とチームワークの充実、現場技術の向上に努めている。</p> <p>意識的に外部評価機関を交代し、セカンドオピニオンの趣旨を採用し、より広い視野からケア資質の向上に繋がる試行・努力を積極的に行っている。</p> <p>月1回のリーダー会議、スタッフ会議を開催し、報告された事例を検討している。内部・外部の職員研修には積極的に参加し、その内容を報告し、スタッフ全員で共有して全体的な介護のレベルアップに努力している。</p> <p>ヒヤリ・ハットを含め、些細な事故・トラブルも漏らさず報告している。その記録を基に、原因・因果関係をスタッフ会議で分析し、問題発生を未然に防止する方法を検討して、再発防止に向け全員で創意工夫している。</p>		